マタイの福音書　第６章　26 節ａ

「空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養っていてくださるのです。」

空の鳥はどのような鳥だろうか。他のところでは雀とか烏について語っている。ここでも多分そのような類の鳥だろうと想像する。ハンターが見向きもしない、ありふれた鳥、さらには人々が毛嫌いするような鳥ではあるが、その鳥を見なさいと言われる。それも、空を飛んでいる鳥を見なさいである。見るというのは、こころを留められていることだ。こころを留めるばかりか、これら見向きもされないかのようなものにイエスは支えとなられ、贖われると約束される。野の花を見よ、ともいわれる。気付かないまま、踏みにじられるようなか弱きものに目を留めてくださる。これをこころに刻むなら、天の御国はそれほど遠くないのである。

野原で空を飛ぶ鳥を見上げる。その原っぱに咲く野草に目を留める。勇壮なものに目を奪われ、華やかに振る舞うものにこころを奪われ、それらこそ世界を動かし、中心に居るべきだと錯覚するとき妄想が始まる。すべてを支え、養い、導いておられる天の父を見失う世界が拡大する。

空の鳥、野の花を見て御国に立つ。

2022 年 5 月 24 日